

新青年部長に聞く！

●就任にあたり

長く厳しい冬も終わりを迎え、春の暖かな日差しを肌身を感じる季節となりました。盟友ならびに組合員の皆様方におかれましては、ご多忙の日々をお過ごしのことと存じます。

この度、第76回定期総会において、青年部長という大役を仰せつけることになりました。私自身、大変微力ではございますが、役員一同、心をひとつにし、盟友の皆様のご協力のもと精一杯務めさせていただきたいと思っております。



新青年部長 五嶋 幹

●青年部長として、今年度の活動の抱負は

昨年度に引き続き、規約の改定を行いました。書記長職を廃止し、副部長を2名体制といたしました。複数体制とすることで副部長にかかる負担を軽減し、今後どの部員が役職に就いても過度な負担とならないよう、組織体制の改善を図ったものです。青年部活動においては、役員のあり方を柔軟に見直していくことは重要だと感じています。活動しやすい環境を整えることで、組織全体が活性化していくと考えます。

また、物価高の影響により、各分野で厳しい状況が続く中、農業を取り巻く環境も一層厳しさを増しています。こうした状況を踏まえ、青年部として「今何ができるのか」ととどまらず、これからの農業のあり方についても模索し、学びを深めながら、地域に貢献できる事業の展開に努めてまいります。

●若い部員に対して、先輩としての期待や要望は

青年部は、年齢に関わらず、自身の考えや思いを発信し、情報交換ができる貴重な場です。部員の中には後継者だけではなく、すでに経営を担っている方もおり、多様な立場の仲間と交流することで自分一人では得られない新たな知見に触れることができます。私自身も、入部当初は先輩方から多くのことを教えていただき、その学びが現在の経営に生かされています。ぜひ、どんな小さなことでも構わないので、積極的にコミュニケーションを図り、自身のスキルアップにつなげていただきたいと思います。

●幹さんのモットーは

「分からないことは聞く、分からないことは調べる」を心がけています。相手が同級生であっても先輩であっても後輩であっても、自分の知らないことは素直に学び、納得したうえで営農に生かすことを大切にしています。

青年部長として多くの方々と交流する機会が増える中、積極的にコミュニケーションを図り、良いと感じたものは柔軟に取り入れながら自身の成長と営農の向上につなげていきたいです。

●これからの農業について

近年、気候変動や世界情勢の影響により、農薬や肥料、燃料、飼料、農業用機械の価格高騰が続いています。さらに、少子高齢化に伴う担い手不足も重なり、日本の農業を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

一方で、GPSやAI、ドローンを活用したスマート農業の普及により、生産性の向上や労働負担の軽減といった明るい動きも見られます。しかしながら、機械の導入コストは年々高まっており、スマート農業においても初期投資の負担が大きいことから、導入をためらう声があるのも現状です。

こうした中、私たち農業者は状況を悲観するのではなく、常に変化する農業を学び、時代のニーズに合った技術を取り入れていくことが重要であると考えます。また、地域や消費者とのコミュニケーションを大切にし、人間的な要素も重視しながら、新しい時代に対応していくことが求められていると感じています。

青年部定期総会

3月2日、青年部（早苗晃平部長）の第76回定期総会が開催されました（14名が出席）。

開会にあたり、出席者全員で「青年部綱領」を朗唱した後、青年部長より挨拶がありました。続いて来賓としてご臨席いただいた西田代表理事組合長、幕別町長の飯田晴義様、衆議院議員の中川紘一様、十勝地区青年部協議会理事の吉田健士郎様よりご祝辞を賜りました。

議事は、七海勝紀さんの進行により進められ、規約改正を含む議案第1号から第5号までの議案がすべて原案どおり承認されました。

また、任期満了に伴う役員改選が行われ、五嶋幹さんを部長とする新たな執行体制が発足しました。

総会終了後には、来賓と部員による懇親会が開催され、和やかな雰囲気の中で親睦を深めました。



総会終了後には、青年部員と農協役員による意見交換会が行われました。